

街づくり支援専門家としての業務実施方針

1 業務の実施方針、業務実施体制の計画及び計画に当たっての考え方

①業務の実施基本方針

街づくり要請のあるコミュニティに対し、ワークショップ手法を核に、協働で街づくりを学び、体験し、思いを語り、課題解決を見出すトレーニングの場と位置付け支援します。

運営プログラムは、地域住民たる参加者を主役として、我々はファシリテーター（進行役）を務め、内容と会議のプロセスに関わりを持ちます。

②業務実施体制の計画及び計画に当たっての考え方

街づくりが必要とされる地区の実情に応じて、街づくり支援専門家と、設定(想定)される課題に対して対応できる各部門の専門家からなるチームを編成し、対応したいと考えています。当社は、公園の整備やあんしん歩行エリアの整備などのワークショップの実績を踏まえ、より地域に密着した課題に積極的に取り組みます。

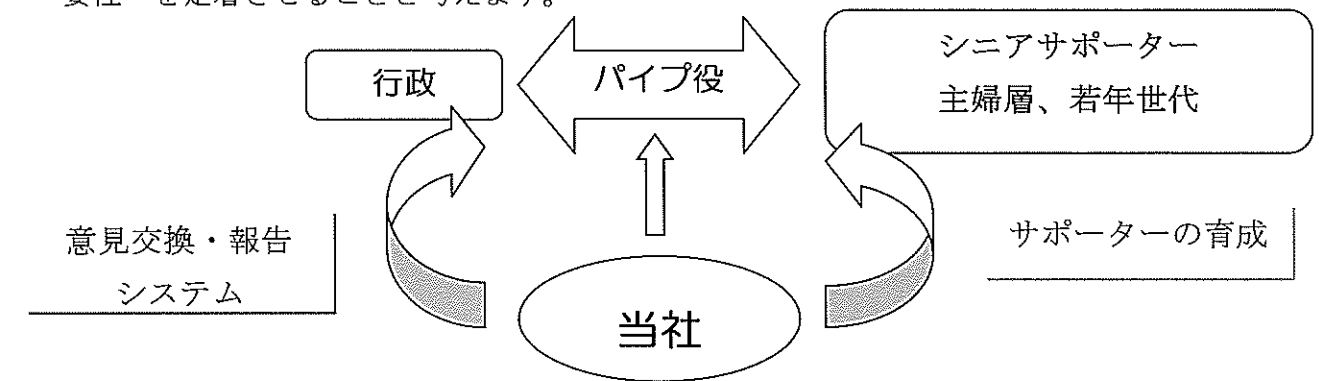
2 業務実施に当たっての着目点

①地域住民との信頼関係の構築

業務実施にあたっては、支援要請地区を詳細に歩き、街づくり支援専門家の視点と生活者の視点で地域住民と向き合い、協働して地域における“不足要素や阻害要素”を整理し、実現可能な問題に対し、解決策や実現方策を検討し、計画の作成を助言・支援してまいります。

②実現性を重視した課題への取り組み

一般に、既成市街地では合意形成が難しいため、地域の課題が少しでも改善できる方策を主眼に置きたいと考えております。急速に進展する高齢化社会の中で、安全で安心して暮らせるまちづくりは、町内会単位での自助・共助が不可欠です。街づくりは、仲間づくりであり、それをワークショップ等の参加を通じて培えるよう心掛けて対応します。そこで提案されたものを少しでも実現させていくこと、実行されることが、住民主体の“まちづくりの必要性”を定着させることと考えます。



3 業務実施に当たっての技術提案

①街づくりサポーターの育成

当社は、まちづくりに関心のある方を参加者の中からサポーターとして指導し育成します。その担い手は、主に団塊の世代や地域に根差した主婦の方、そして若者の中から育成したいと考えています。サポーターが呼びかけ人となり、世代間の問題、価値観の相違、生活の知恵を、ワークショップを通じ意見交換し、地域住民の協働意識を高め、課題の克服に取り組みます。

②街歩きによる課題の抽出

ワークショップでは、参加者全員が共通の認識を持つために、実際に問題箇所を見て歩き、確認する必要がある、現地調査やフィールドワークを実施することが重要になります。街歩きにより得られた意見を交換することが相互の理解を深め、協働の街づくりの第一歩となります。

③3Dを活用したシミュレーション手法の提案

課題対策の一手法として3D（3次元）を活用し、自由な意見と発想が出来るよう、また平易な言葉とわかりやすい資料の作成に努め、街づくりに対する理解を浸透させます。

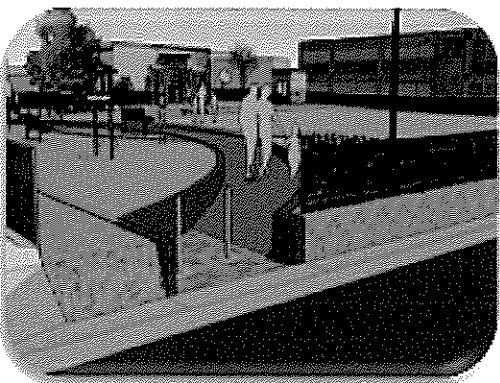
4 その他業務実施上の配慮事項

①行政と住民とのパイプ役

ワークショップの場では、総合計画でいう広義の「まちづくり」に関するテーマも多く出されるものと想定されます。むしろ福祉や教育、防犯・防災に関することなど生活に直結する多様な意見はそのまま吸い上げ、関連する担当部署への報告や調整も必要になるため、的確に対応できるように行政との意見交換や報告システムを構築したいと考えます。

②コミュニティマネジメントの役割

持続的なまちづくりを構築するには、地域ネットワークが重要です。例えば地域などでは、貴重な資源を残したいと思う人がいると思います。こうした住民の思い、情報を官・民で共有し、協働で一つの形にしていくなどコミュニティマネジメントの役割に努めます。



3Dの活用例